

並に其時對其時又の對する第一少平を對其したるは、
この直對の時には非合志手對を以て無難の主義者たる大外特
東の大義者のもちをもち其の對する當時の對するは
然るべきの又主義者の一人甘願強兵大義の大五十二平其且備
ふ意利を非を云つて其のまを。

このまの對するは又無難の主義の對するは又主義者の對するは
さ苦なる其對するは又無難の主義の對するは又主義者の對するは
對するは又無難の主義の對するは又主義者の對するは
無難の主義者の對するは又無難の主義者の對するは
大外特者著す時也

安谷真一

昨日の對するは又無難の主義者の對するは又主義者の對するは
對するは又無難の主義者の對するは又主義者の對するは
對するは又無難の主義者の對するは又主義者の對するは
對するは又無難の主義者の對するは又主義者の對するは
對するは又無難の主義者の對するは又主義者の對するは

財団法人協調會大阪支所

而かも斯く大切なる國法擁護の任に當るべき重大なる職務に在
る憲兵將校が却つて反對に官權を亂用して何等罪なき大杉君以
下を虐殺した上に尙且つ國士を以て任じてをるとは一體何んと
云ふ滑稽な亦恥知らずの不逞漢であります併て僕はもうその事
は云ひますまい、

敵はいくら凶暴でもかまはない此の凶暴に仆れた大杉君の總て
は今日世界の無産階級に向つて一体何を言へるか何を語るかを
教へるか、僕等は己によく知つてをるのであります、兎も角大
杉君等は斯くして死んだ否虐殺された洵に人生の敢果なきは泡
味の如く常住無情であります、今大杉君の生前を憶へばあの
れたる眼さしあの頑丈なる體腦あの元氣あのまげず魂あの親切
に彷彿として眼前に低回する君の高ぶらざる人間味とを思ひ出
づる時君や己に死し悲衷の感はそのろに胸をふさぎ熱涙を禁じ
得ないのでありますけれども翻つて一考する時革命家たる大杉
君の最後は亦實に當然のそして僕等同志の共に美望惜かざる光